

人・まち・地球が好きだから「RERA」仲間この指とまれ

きたく RERA(リラ)Times vol. 6

NPO 法人北区リサイクラー活動機構

HP : www.kitakurecycler.or.jp

私たちは、SDGs 目標達成に向け、限りある地球資源を引き継いでいくため、地球環境の負荷を減らすライフスタイルへの転換をめざし、地域で行動していきます。



HPはこちら

6月11日(水)、午後6時～7時に北とぴあ17階のビュー&キッチン クアドにて、第24回通常総会が開催されました。今号の「RERA(リラ)Times vol. 6」では、総会報告と、「水素エンジン その2」を特集いたします。

第24回通常総会が開催されました



新たな気持ちでスタートしたセカンドステージの総会。
やまだ加奈子北区長よりご挨拶をいただきました。

総会は、定刻通り午後6時に開始しました。司会は宮川美一氏。小笹悦子理事長のあいさつに続いて、定足数が発表されました。正会員総数24名中、14名出席、5名委任状の合計19名となり定款25条による開催定足数、正会員総数の2分の1以上を満たしており、本総会は成立しました。続いて白岩志津子理事が議長に選出され、また、議事録署名人として阿部一男理事と尾関和子理事の2名が発表されました。

なお、提出議案については、若干の質疑応答の後、満場一致で全てをご承認いただきました。

今年度、新たに取り組む2つの政策提案事業

■政策提案その1

ゼロカーボンシティ構築に向け水素の活用を促進する。

このことについて、八上康雄理事と東京都市大学工学部機械工学科教授の伊東明美氏から「水素エンジンの実用化」について提案がありました。『リラ Times vol 2』でも説明していますが、今号裏面もご覧ください。今後、活動機構としては、区に提案をしていきます。

■政策提案その2

「食のリサイクル」の構築に向けて地産地消を推進する。

このことについて、尾関和子理事と正会員の古賀由希子氏より提案の説明がありました。かつて活動機構は、学校給食の残渣を堆肥にして群馬県の甘楽町で有機野菜を作って、それを北区で販売していた時期がありました。今後は『北区にコミュニティファームを作りましょう』を目指して区に提案していきます。

■アドレスは recycler3196@outlook.jp 皆さまからの提案をいつでもお待ちしております。

色々なエネルギーのお話



八上康雄（やがみやすお）さん

リラ Times (Vol. 2) で水素エンジン車についてお話いただいた東京都市大学内燃機関工学研究室の八上康雄さんに、今回は興味深い2つのプロジェクトのお話をいただきました。

汚染森林のバイオガス化

2011.03.11 東日本大震災で福島原発が津波により崩壊し放射能が大量に洩れ周辺を壊滅的に汚染させた記憶はまだまだ新しいものと思います。この時、特に原発周辺の森林は放射性物質の滞留によりその森林を伐採し新しい植林を行う事になりました。実はここで伐採された汚染樹木の量は半端なく、これをどう処理するかが問題になりました。そのプロジェクトの一つとして産官学による汚染森林のバイオガス化から発電までをする事を福島県の民間業者、環境省、そして私たち東京都市大・内燃研がそれに取り組みました。



福島で実施された除染後の森林樹木から発電する施設

プロジェクトは一定の成果を収め約 25KWh (約家庭 5 軒分)の電力を得るところまで行きました。この時は汚染樹木を除染しそのうえでこの木材をペレット(木材チップを更に細かくし、小さな塊にしたもの)化しこれをガス化させてエンジンに供

給し発電機を回して電力を得る仕組みです。

あいにく直後のコロナ禍によりプロジェクトの継続は一旦断たれました。この方法による電力製造についてはドイツでは結構普及しており似た国情の日本でもできるのではという目論見でした。(このお話は「第99回明日塾」の講演で行いました)

メロンの発電

静岡県・袋井という処ではメロン農家が多くありそのメロン収穫の後、大量の葉や茎が廃棄物として発生します。これをバイオ発酵させてメタンガスを作り、それでエンジンを回し発電するというものです。ここでなぜ一方では単純にこの残渣を燃やしてタービンを回し発電している場所もあるのに、わざわざエンジンで発電する必要があるの？と思われる方も御在りかと思えます。(ここではタービンとエンジンを別物として表現しています)タービンで発電する施設は巨大で小さな場所・地域でいわゆる地産地消には本来向きません。ですからドイツでも民間レベルでの小規模な発電システムとしてこのエンジンによる発電が普及しました。

これ以外にも養豚場から出る糞からメタンを抽出したり、梅の実から梅干し等を作ったりする際に出る残渣物から、やはりメタンを抽出発電するなど現在、色々なエネルギーを有効利用する方法が身近にあります。

当機構では「食のリサイクル」の構築に向けて地産地消を推進し、「北区にコミュニティファームを作りましょう」を掲げています(表面参照)。

いつの時代も自然に近い農・林業と見かけが一番自然から遠い工業的プロジェクトとどこかで接点を見つけ出して人の生活を潤うことができればとても幸せなことですね。



八上康雄